



再生

天の岩屋戸

須佐之男命は、天照大御神が耕される田の畦をこわしたり、新米を神さまと共に召し上げる大切な神殿に汚物を撒き散らす罪を犯しました。天照大御神は、それでも辛抱して咎めずにおられると、命は図に乗って、神さまにお供える布を織っている機屋の屋根の上から、皮を逆剥ぎにした馬を投げ入れる乱暴まですでに仕出かしました。

畏れ多いことと感じられた天照大御神は、天の岩屋戸の中にお籠りになってしまわれました。すると、高天原も地上の葦原中津国も真っ暗闇となり、あらゆる災いが湧き起こってきました。

困り果てた大勢の神たちは、天の安河原に集まり、知恵のある思金神を中心に話し合い、天照大御神を誘い出すお祭りをすることにしました。

長鳴鳥を鳴かせ、根こそぎにした榊の枝に勾玉と鏡、白と青の幣を取り付けて岩屋戸の前に据え、祝詞を申し上げ、天宇受売命が桶を踏み鳴らして陽気に踊りました。

高天原を揺るがすような神たちの笑い声と、鏡に映った自分のお姿を不思議に思われた天照大御神が外をのぞかれると、すかさず天手力男命が岩屋戸を開いて大御神を首尾よく外へお迎えすることができました。

天照大御神がお出ましになると、高天原も葦原中津国も再びまばゆいばかりの光が満ちあふれました。

○天照大御神さまは、どんなすぐれた力をお持ちの神さまだと思いますか。